

A P T 通信

(葵高校教育改革プロジェクトチーム)

令和2年度 第2号 7月31日発行

7月17日（金）の1学年の課題探究活動「葵ゼミ」では、「ロジカルシンキング講座」として、課題を解決するにはどのようなステップが必要かを学ぶワークショップを行いました。講師は、一般社団法人「Bridge for Fukushima」代表理事の伴場賢一さんです。内容は「プロブレムツリー」と「オブジェクトツリー」という思考ツールを用いて、SDGs^{※1}に関わるあるテーマをグループで協議しながら解決法を探るものでした。課題を解決するために必要な論理的思考法を学ぶことがねらいです。



講師による課題の提示



問題の原因を付箋に書いて模造紙に貼り付ける

伴場さんから提示されたテーマは「会津若松市の家庭ゴミは、全国平均の約1.4倍であるが、ゴミを減らすためにはどのような取組が必要か」でした。生徒たちは、事前に「ごみ問題」についての記事を「自分ノート」にまとめて問題意識を高めて参加しました。グループごとに思考ツールを活用して意見を出し合い、問題を原因と結果に書き出して見える化し、目的と手段に転換することをとおして解決案を考える活動に取り組みました。



原因をもとに結果を考える



解決案を考える

生徒たちが考えるゴミを減らすための対策の提案は、「自炊を奨励して使い捨て容器を減らす」「観光客にゴミの持ち帰りをお願いする」「地域の行事をゴミの視点で見直す」「食べ残しを減らす運動を呼びかけて飲食店からのゴミを減らす」などで、グループ内で多数の案を生み出し、実現可能な提案を選び2時間の活動のまとめとしました。

事後のアンケート調査の結果では、講座の内容についてきわめてよかったと答えた生徒が68%、よかったと答えた生徒を含めると99%が達成感を得た様子が見られました。また、内容を理解できたかという質問にも97%の生徒が理解したと回答し、腑に落ちたという実感を得たと考えられます。



他のグループとの情報交換



解決案の再検討

以下は生徒の感想です。

班での活動で自分では思い浮かばないような原因や結果を考えることが出来てとても勉強になった。なかなか良い答えが出ない事もあったが、先生方にサポートして頂き考えを深める事が出来た。

問題の論理的な考え方がわかった。1つの中心問題について原因を複数出して、またそれを結果にして原因を考え、そして前に出たところをポジティブにすることで気づいたら解決策が見つかって、この方法が凄いと思った。今後の葵ゼミでこれを利用したい。グループで話し合う時間や他のグループの意見を見てくる時間もあって、自分だけじゃ考えることの出来ない沢山の様々な考えに触れることもできてすごく良かった。

グループワークなどを通してコミュニケーション力が鍛えられ、かつ同じグループの人達とも仲良くなれました。会津若松市のゴミ問題の現状を知り、危機感を持ったとともに、なぜそのようなことになったのか、どうすれば改善できるかについて深く考えるいい機会になりました。

今までに色々な課題を解決するという事を沢山やってきたけどどういう順番でやるかとか分からずに原因をつきとめず手段だけを求めてやっていたけれど今日の講座を受けて考える順番や手段など効率よく考えるやり方がわかってすごくためになりました。二学期の葵ゼミではこれらを活かして論理的にプロジェクトを立てられるようにしたいです。たのしかったです。

思ったことを言い合って「なるほど〜」や「いいね！」っていう声が飛び交って考えたり、発表したりするのがとても楽しかったです。自分では思い付かない考えが出てためになりました。

まず会津若松はゴミの量が全国よりも多いことに驚きました。結果には原因があるので原因を考えると改善することに近づくと思いました。友達と話し合っただけでさらに考えを深められました。また、話し合いをするときには否定をせず、承認してスムーズにすることも大切だと思いました。身近なことからゴミ問題を解決していきたいと思いました。

やはり自分1人で問題解決の糸口を見つけるとなると、行き詰まってしまうのでやり方を知ることが出来て参考になった。今回教えていただいた方法を使うと、なかなか1人では出てこない意外な方向からの、解決方法を見つけ出すことができるようになると思いました。これからの葵ゼミの時間で活用していきたいです。

課題について、目的と対策をしっかりと考えられました。論理的という言葉が難しく考えていたのですが、今回の講座で、問題を簡単に表していくことなんだと知りました。これから本格的に葵ゼミが始まるので、今回の課題への考え方などの経験を参考にして、取り組んでいきたいです。

ひとつの課題について、どう解決していけばいいのかという方法がよくわかりました。普段なかなか体験できない活動だったので、とてもいい機会でした！

グループの人と、たくさん意見を出せた。おもしろい（興味深い）意見も出て楽しかった。先生や、大人の方と喋ったり質問されたりしたのも、新しい発見があって楽しかった。

社会問題を論理的に考え、解決策を見つける方法がよくわかりました。中心問題から原因、結果を考えそれを反転させると論理的な解決策が生み出せるという仕組みがすごいなと思いました。グループ活動で議論が詰まってしまうと先生方や講師の先生が問いを投げかけてくださったのでしっかり議論を進めることが出来てとてもいい活動ができたと思います。



解決案を選択し提案する



講師とスタッフ（大学生）へお礼のことはば

「思考力、判断力、表現力等」の育成にあたって現在求められる学習イメージは、生徒たちが学習のねらいを持ちつつ様々な道の間を、知識や技能を活用しながら思考、判断して答えをつくり、さらに、生まれた答えをもとに言語活動などによって他の様々な答えに気付いていく、その結果、ものの考え方にはいろいろな道筋があることを生徒たちが実感できるような授業といわれています。そこでは、生まれた答えだけでなく、どのような道筋で生まれた答えなのか「過程」を重視し、教師がしっかり見取りながら生徒たちに評価（声かけ、問い、賞賛）を返していくことも必要と考えます。

葵高校では、生徒たちが「学びの価値」と「学びの必然性」を生きる上で実感できるような学習活動の展開を今後も目指しています。

- ※1 2015年に国連で採択された「2030年までの達成をめざす17の目標」
国際機関、政府、企業、学術機関、市民社会、子どもも含めた全ての人々が、それぞれの立場から目標達成のために行動することが求められている。